

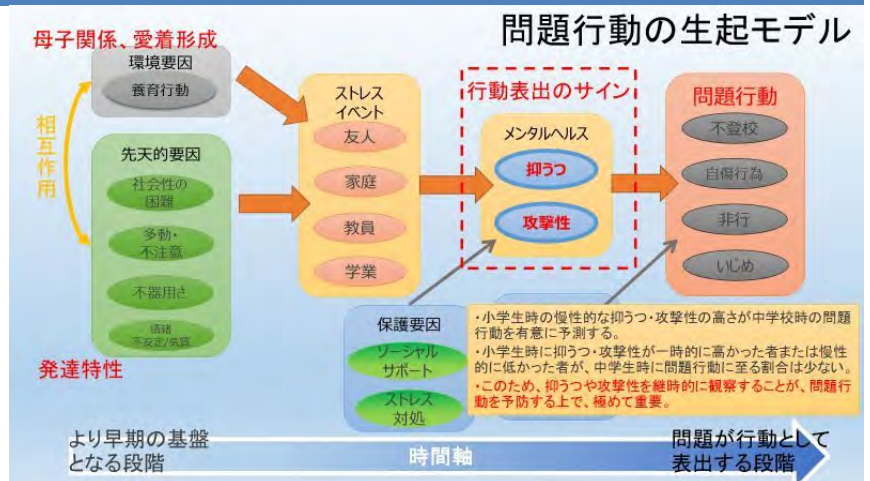
## 2. 就学後(学校)支援活動

弘前市を中心とする学校支援システムの構築

### 学校コホート調査:「心のサポートアンケート」

**目的:子どものメンタルヘルスを定点観測することで、不登校やいじめのリスクを明らかにする。**

- ・思春期にかけて増加する問題行動の早期発見を目的とする。
- ・上記を踏まえ、現代の子どもの問題行動に対する保護因子・危険因子を明らかとする。
- ・調査結果は、フィードバックされ、学校運営や生徒指導、メンタルヘルスチェックに役立てられる。



#### これまでの調査対象校

2014年度	小学校(17校)	3,836名	中学生(12校)	2,131名	計5,967名 (回収率98.1%)
2015年度	小学校(36校)	8,135名	中学校(16校)	4,462名	計12,597名 (回収率98.6%)
2016年度	小学校(35校)	7,912名	中学校(16校)	4,483名	計12,395名 (回収率98.6%)
2017年度	小学校(35校)	7,825名	中学校(16校)	4,358名	計12,183名 (回収率98.4%)

パネルデータを取得

# 調査内容

## 児童生徒

- 抑うつ傾向 (全学年) ・ 攻撃性 (2年生以上)
- ストレス (3年生以上) ・ QOL (4年生以上)
- インターネットへの依存傾向 (4年生以上)
- 行動や情動の抑制 (Effortful Control: 4年生以上) 2016年度追加
- 子どものソーシャルキャピタル (4年生以上) 2017年度追加

二次障害のリスクを見積もる指標として活用

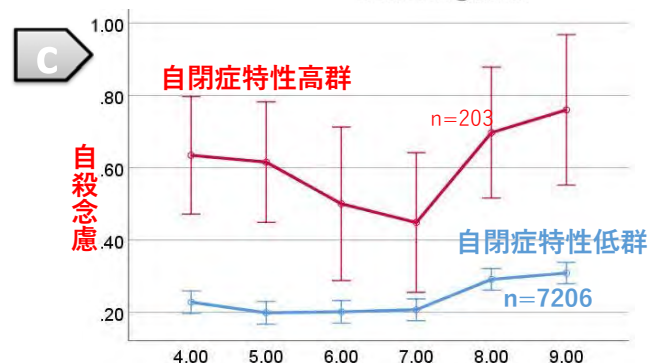
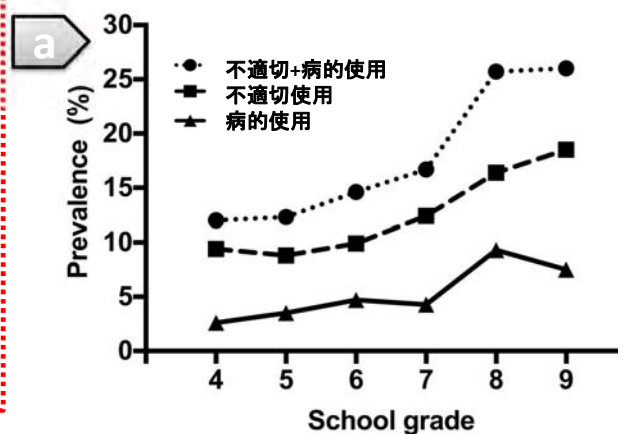
抑うつ：内在化問題の指標  
 攻撃性：外在化問題の指標

## 保護者

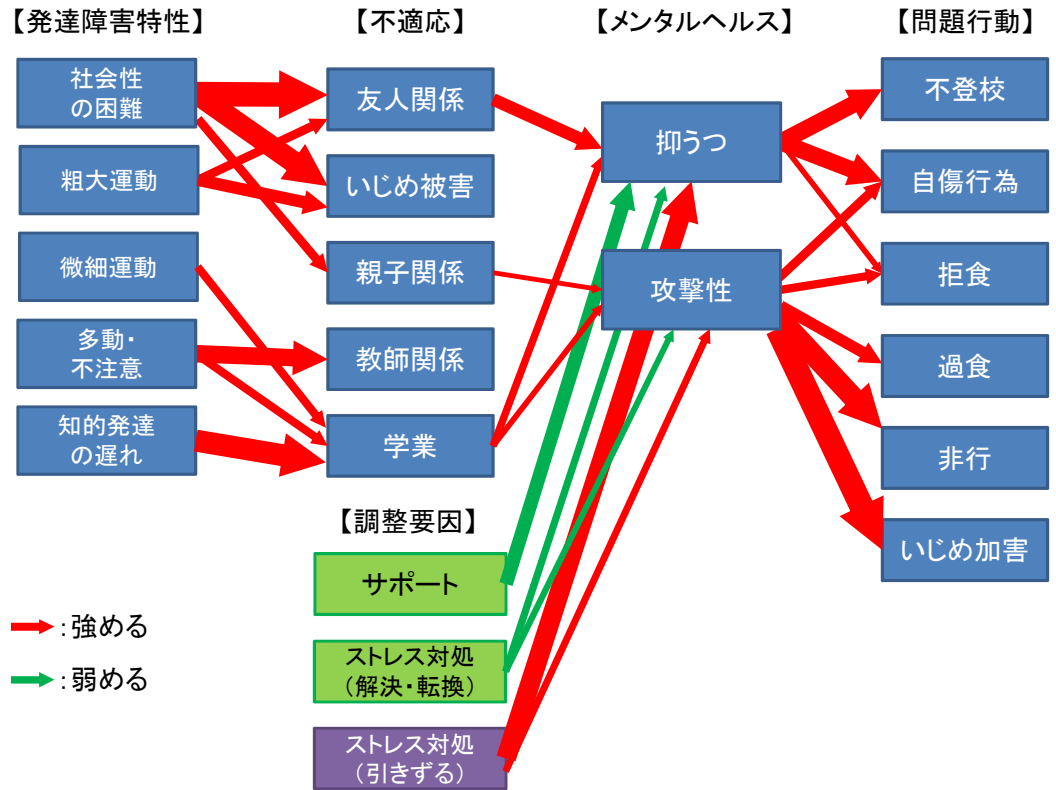
- 生活適応(総合的な支援の必要性)の評価
- Callous / Unemotional trait : CU 特性 (反社会的行動の予測因子: 2015年度のみ)
- 発達の特性(1年生)
- 行動や情動の抑制(Effortful Control: 2年生以上)

### これまでの研究実績で得られた知見

- a** 小学生の5.4%(95%CI:4.9-5.9)、中学生の12.8%(95%CI:12.1-13.5%)に病的なインターネット使用が認められた (Takahashi et al., in revision)。
- b** ADHD不注意特性の高い児ほど、翌年の学校関連QOLが低い。
- c** 自閉症特性を高く持つ児は、そうでない児に比べ自殺念慮を抱きやすい。



# 学校コホート調査 解析結果概要



# 学校 フィードバック

各学校に現在の  
メンタルヘルスの状態  
を返却

教育委員会とデータを  
共有し、総合的な学校  
支援に活用

**「自分の気持ちを知るためのチェックリスト」結果のご報告**  
〇〇中学校

平素は、弘前大学の子どものこころ発達研究センターで進めております卒業にご理解とご協力をお願いし、誠にありがとうございます。9月にご協力いただきました児童への「自分の気持ちを知るためのチェックリスト」の結果をご報告申し上げます。

**【1. チェックリストの内容について】**  
チェックリストは、以下の3種を実施していただきました。

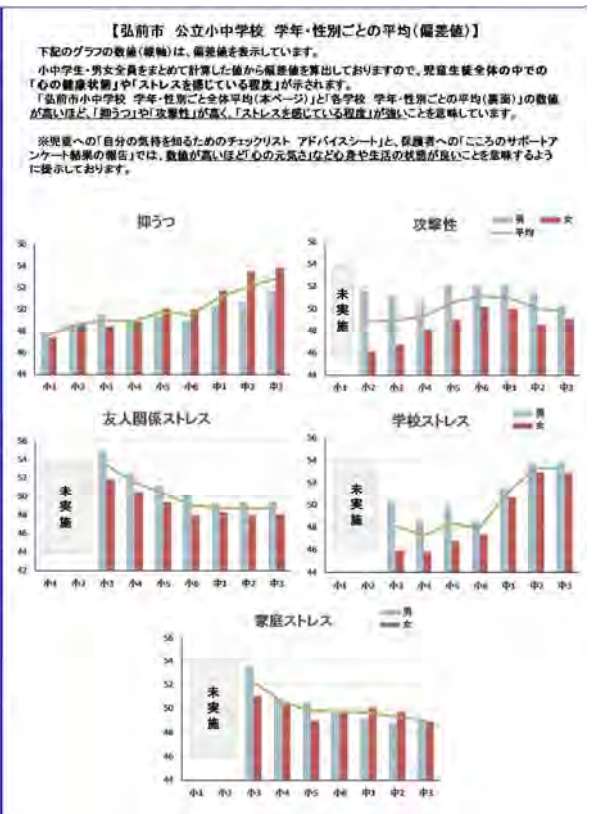
- 抑うつ : 気分の落ち込み、やる気のなさ、自信のなさなど、うつ傾向を調べるものです。
- 攻撃性 : ちょっとしたことでも怒る、怒ると喧嘩になってしまう、人の言動を否定的にとるなど、怒りやすさの傾向を調べるものです。
- ストレス源 : 児童期・思春期のメンタルヘルスに関するストレスについて、「友人関係」、「学校(学業・先生)」、「家庭」の3つの側面から測定しました。

**【2. 結果の見方】** 裏面＝弘前市全体の傾向 裏面＝各学校 学年・性別ごと結果  
「抑うつ」、「攻撃性」、「ストレス源」について  
・集計結果は、弘前市児童生徒の得点から算出した「平均点50、標準偏差10」の「偏差値」を、学年・男女別にご報告いたしました。折れ線グラフは、弘前市内の小中学校全体の平均偏差値を記したものです。  
・各チェックリストの得点は、いずれも得点が高いほどその傾向が強いことを示します。  
・学年間に得点の差があるか、男女差があるかについてコメントさせていただきました。

**【3. 弘前市全体傾向の結果(右のグラフから)】**  
「抑うつ」の全体的な傾向として、小学2年生から8年生まで得点が増える傾向がありました。特に、高学年でこの傾向が顕著でした。これは、自分の気持ちや個性の理解ができるようになっていく過程を反映したものであり、発達的な変化といえます。また、男女差をみると小学校3年生から女子の方が得点が高い傾向にあり、女子の方が自分の気持ちや個性の理解の発達が少ないようです。こうした一般的な傾向の一方で、介入が必要レベルの「抑うつ」を示す児童・生徒が一部は存在していたこととみられます(1～2割程度)。  
一方、「攻撃性」について、男女差をみると男子の方が得点が高かった傾向になりました。かつとなった時に、男子の方が自分の気持ちや言葉で表現する傾向があるといえます(特に中学年)。また、この「攻撃性」の得点が顕著に高い場合は、「抑うつ」も同時に高い傾向がありました(特に女子にみられる)。裏面にあらわれる目立つ言動のみではなく、ちょっとした変化を見逃さない配慮が必要といえます。  
「ストレス源」では、「友人関係」と「家庭」が小学校3年生から徐々に低下する傾向がみられ、子どもの発達とともに落ちついていく傾向や、家庭から友人へと関係性が広がる様子が見られます。「学校」は中学校に入るとグッと上昇しており、勉強のしんどさや環境的な変化の影響が全般的に出やすくなることがみられます。  
以上の結果は児童生徒1万人超のデータから示された全般的な傾向であり、本年度もほぼ同様の結果になると予想されます。別途お渡ししております、個人の結果もご参照の上、今後のご指導の参考にさせていただければ幸いです。

**【4. 弘前市全体と比較した貴校の傾向(裏面のグラフから)】**  
「抑うつ」では、弘前市の平均値から大きく離れた学年はありませんでした。  
「攻撃性」については、2年生女子で平均より低く、おたやかで落ち着いていた様子が見受けられます。

9月時点の様子と比べ、現在の学年の様子はいかがでしょうか？生徒の様子を確認するきっかけとしていただければ幸いです。





# 個人 フィードバック 2016版

児童生徒一人一人に

- ・こころの元気さ(抑うつ)
- ・こころの穏やかさ(攻撃性)
- ・生活の満足度(QOL)
- ・インターネット利用(依存傾向)
- ・現在の状態への総合コメント

をフィードバック

メンタルヘルスのセルフ  
チェック(保護者チェック)を  
促す。

**「自分の気持ちを知るためのチェックリスト」アドバイスシート**

学校名: 岐阜小学校 学年・期: 6年 ありなう期 氏名: \_\_\_\_\_

9月に回答してもらった「自分の気持ちを知るためのチェックリスト」調査の結果から、あなたの子供について結果をお知らせします。結果の見方はページ後半にてご説明します。結果の見方はページ後半にてご説明します。結果の見方はページ後半にてご説明します。

**【心身の健康】**

★6個のうち ★★★★★☆  
アンケートに回答した9月頃、「心の元気さ」は、少し減りませんでした。

♡6個のうち ♡♡♡♡♡♡♡♡  
アンケートに回答した9月頃、すこし心が落ち着かず、イライラすることが多かったようです。

**【生活の満足度】**

自分のこと  やや多い  やや多い  やや多い  
 友達との関係  やや多い  やや多い  やや多い  
 友人関係  やや多い  やや多い  やや多い  
 学校のこと  やや多い  やや多い  やや多い  
 家庭環境  やや多い  やや多い  やや多い

**【インターネット利用】**

多い  やや多い  適切  
 使用時間を見直しましょう。

**【総合コメント】**

あなたは、アンケートに回答した9月頃、「心の元気さ」と「心のおだやかさ」がそれぞれ、元気がなかったりイライラすることが多かったようです。自分が楽しめる活動や楽しいと感じられる活動を探して、心のスイッチをためていきましょう。

生活の満足度は、「自分の生活」がやや多い、お友達との関係がやや多い、友人関係がやや多い、学校生活がやや多い、生活環境がやや多い、インターネットの利用がやや多いと、全体的にやや多い傾向にあるようです。毎日1時間程度インターネットを利用することは、学習や生活に役立ちますが、長時間利用は、目の疲れや集中力の低下、生活リズムの乱れの原因となります。また、インターネットの利用状況については、他の人よりも利用しやすい傾向にあるようです。毎日1時間程度インターネットを利用することは、学習や生活に役立ちますが、長時間利用は、目の疲れや集中力の低下、生活リズムの乱れの原因となります。

**【心の調子を整えるために】**

この子の調子は日々変わったり落ち着いたりします。調子が悪くなったときには、元気がなくなったり、生活が楽しくなくなったり、イライラすることが多くなったりします。あなたは、イライラして暴言や行動を繰り返してしまったりすることがあります。もしあれば、次の3つのことを心がけてみましょう。

- ① 調子が悪いな、元気がないな...と感じたら、まわりの大人に話をしよう。  
 家族・先生・スクールカウンセラーなどは、あなたの気持ちに聞いてくれるので、話を聞いてもらいましょう。
- ② 毎日の生活の中で、ひとひととつながったこと(例えばお話を聞いたり、お話を聞いたり、お話を聞いたり)を思い出して、それを思い出して、「おだやかさ」と感じることを試してみよう。おだやかさは、おだやかさです。
- ③ 毎日おだやかさを考えたり、おだやかさを考えて、おだやかさを考えるように試してみよう。おだやかさ、おだやかさ、おだやかさを考えることで、おだやかさを保つことができます。

## クラス フィードバック

【学校運営や生徒指導】

### 重要項目

1. 生きていても仕方がない
2. いじめられたり、からかわれたりしている

の2項目を重要項目として、そのようなことが頻繁にある児童生徒には★が最大で3つ付けられる。

## 結果の見方

～抑うつ・攻撃性・友人関係ストレス・学校ストレス・家庭ストレス～

【未評定】  
○欠席・未実施等のため、データなし ※- : 未実施(対象外)あるいは無回答

【抑うつ～家庭ストレス】  
50を平均とする偏差値で表記 60以上=やや高い 70以上=高い

年組	番号	名前	未評定	抑うつ	攻撃性	友人関係 ストレス	学校 ストレス	家庭 ストレス	重要 項目1	重要 項目2
3	4	1	○	42	46	41	52	45		
3	4	2	○	61	48	64	49	61		★
3	4	3	○							
3	4	4	○	48	42	33	39			★★★

児童生徒への個別返却シート内では、**【心の元気さ】**として逆得点で表示

児童生徒への個別返却シート内では、**【心のおだやかさ】**として逆得点で表示

※児童生徒へは上記2尺度のみを返却しています(小学1年生は「心の元気さ」のみ)

・60以上を黄色マーカー、70以上を赤マーカーで表示しています。「得点が高い=心配な状態」として読み取ることができます。(58点・59点は全く心配ないということではないので、普段の様子とあわせて、1人ずつご確認ください。)  
 ・各尺度の特徴や、基本的な対応方法はp4以降をご覧ください。

クラスごとの結果リスト解説資料より抜粋

# 一次予防活動Ⅱ:心理教育 心の授業

- 弘前市小中学校調査(心のサポートアンケート)のクラスフィードバックを受け、希望校には児童生徒への出前授業(心の授業)を実施している
- 授業内容:心の機能・感情・思考パターン等について学ぶ(心の調子に気づく/適応行動を見つける/リラクゼーション法を身につける など)
- 実施数:4校8クラス(196人)に実施 (2014年から2016年10月現在)



心の授業  
配布リーフレット

HIROSAKI UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE  
Research Center for Child Mental Development

**「こころの授業」**  
この授業は、不登校や非行など心に関連する問題を未然に防ぐために、クラス全体に対して行う心理教育授業です。  
授業を通して心の機能・感情・思考パターン等について学び、心の健康・適応を保つための手立てを児童生徒自らが活用できるようになることや、クラス全体での向社会的行動を増やして、不登校・二次障害などのリスクのある児童生徒に対して、同じクラスのメンバーがサポートし、支えあえるクラスにしていくことを目的としています。  
センターでは、いくつかの既存プログラムを用意しておりますが、クラスの実態に合わせた授業となるように、学年・実施時期・内容・実施回数など先生方と事前に打合せを行った上での実施となります。興味のある先生は下記問合せまでご連絡ください。

**授業内容の一例 ～心の働き・自分を大切にする方法(前半)～**

過程	学習形態	学習活動 ( )児童の学習内容 ●教師の働き	時間	指導の手立て *指導上の留意点 ○板書教材等
導入	全体	(1)こころの場所をイメージする。 ●人差し指を出すように指示し、ここらがあると思う場所を一齐に指さすように指示する。 ●自分が示した場所とクラスメンバーが示した場所を見比べよう指示する。 ●「胸」か「頭」を指している場合、どちらも正解であることを伝え、板書する。 (2)こころの働きをイメージする。 ●「胸」「頭」の働きを自由に回答させる。 ●感情(ドキドキ)は胸で感じ、判断(思い)は頭で行う、心の働きであることを伝える。	5	*自由に想起させる。 ○板書1
	個人	「こころについてイメージを持ってきたか。」 (1)「いまの調子」について自己診断する。 ●グラフを板書し、挙手によってクラスメンバーの調子の「良い、悪い」を段階的に把握させる。 ●心の調子を整えることを「ストレスマネジメント」ということを伝える。		*自由に想起させる。 *自分の言葉で表現させる。 ○板書2
	全体	(1)「いまの調子」について自己診断する。 ●グラフを板書し、挙手によってクラスメンバーの調子の「良い、悪い」を段階的に把握させる。 ●心の調子を整えることを「ストレスマネジメント」ということを伝える。		○板書3 *人によっても、自分の中でも状況によって感じ方が異なることを理解させる。 ○板書4
	個人	(2)「自分のいいところ、いい行動」について考える。 ●ワークシート1に沿って、自分のいいところいい行動とは、特別なことではなく、普段当たり前に出	12	○シート1配布 *「新書を聴いた人」などの例を出しながら、児童が考えやすくなるよう工夫する。

授業は続きます...

**-実施時期-**  
先生方と相談の上、日にちを決めます

**-実施場所-**  
各クラスで実施します

**-実施者-**  
センタースタッフがを行います  
※先生にも授業補助をお願いします

**-授業内容-**  
こころに関する問題を予防する授業です  
「心って何?」「ストレス対処の方法」  
「自分や友だちの〇〇再発見!」など

**-実施形態-**  
1時間の授業の単位で1回~数回行います

リラクゼーション法を  
実践したり

小学生にはゲーム性  
のある内容です

皆真剣に取り組  
み、  
発表します

**一案件に関する問合せー**  
弘前大学大学院医学研究科  
附属子どものこころの発達研究センター  
0172-39-5545  
syasuda@hirosaki-u.ac.jp  
(担当:安田)



## 二次予防活動 専門職の養成：保育士・教員研修会 / 巡回相談

### 2014年

#### 高柳 伸哉 9件

1. むつ市学校保健会研修会 講師
2. 若手心理職のための研修会 講師
3. 弘前市よつば保育園園内研修会 講師
4. 南津軽群発達研究会保育士部会 講師
5. 弘前市ひろさき発達相談研究会 講師
6. 弘前市船沢保育園園内研修会 講師
7. 青森県保健福祉大会 パネリスト
8. 弘前市こどものカタチ 講師
9. 弘前市発達健診説明会 講師

### 2015年

#### 栗林理人 13件

1. 心の健康に関する教育研究協議会「精神神経等の理解と学校の対応」講師
2. インクルーシブ教育研修会「つまづき、困っている子への指導・支援の在り方」講師
3. 特別支援教育教育課程教育事務所別研究集会 情報提供
4. 中南地区定時制通信制教育研究大会「思春期における精神疾患の理解と対応」講師
5. つがる小児科医の会学術集会「児童思春期の臨床一見立てと対応」教育講演講師
6. 行動援護従業者養成研修会「強度行動障害と医療」講師
7. 青森県高等学校PTA連合会健全育成研修会「高校生の心の健康をどう支えていくか～いかにして子どもたちを育てるか～」講師
8. 西北五合同学校保健研究大会五所川原大会「子どもの見立てとその対応」講師
9. 弘前病院院内学習会「妊婦、母親への精神的支援について」講師
10. 弘前市立豊田小学校保護者講演「『子どもの発達とその特性』について」講師

### 2015年 つづき

#### 栗林理人

11. 家庭教育支援普及定着研修会「乳幼児期の育ち～愛着形成の必要性～」講師
12. 弘前大学との地域づくり連携事業「子どもの心とその臨床」演習指導
13. 放課後児童クラブ支援員研修会「子どものこころの発達をみんなで考えよう～親や地域の大人の関わり方について～」講師

#### 高柳 伸哉 1件

1. 弘前市保育等研修事業 子育て支援入門編 講師

#### 足立 匡基 7件

1. 弘前市第一中学校校内研修会「心のサポートアンケートの活用」講師
2. 弘前大学大学院医学研究科公開講座「メンタルヘルス: 子どものメンタルヘルス」講師
3. 五所川原市学校保健研究大会 「思春期のメンタルヘルス」講師
4. 弘前市城東小学校校内研修会 「心のサポートアンケートの活用」講師
5. 弘前大学教育学部附属中学校校内研修会 「心のサポートアンケートの活用」講師
6. 弘前大学との地域づくり連携事業「こどもの心とその臨床」講師
7. ひろみちお兄さんの親子体操指導者養成講座 「発育・発達心理学」 講師

## 2016年

### 栗林理人 7件

1. 青森県地域活動連絡協議会児童福祉週間会員研修会「今、子どもたちに起こっていること」講師
2. 不登校児への支援を考える研修会 講師
3. 心の健康に関する教育研究協議会「子どもの発達とその特性」講師
4. 稲垣中学校教育講演会「子どもの見立てとその対応」講師
5. 青森県特別支援学級設置学校長協議会「第1回評議員・代議員研究協議会全体研修会」講師
6. 青少年健全育成フォーラム(いじめのない社会を作るために)「子どものメンタルヘルスー不登校、いじめとの関連からー」講師
7. 青森県養護教員研究大会「養護教諭の職務」子どもの心の健康をサポート！～点から線、そして面の校内支援体制へ～ 指導助言

### 足立 匡基 11件

1. 弘前自閉症啓発デイ シンポジスト
2. 青森県地域活動連絡協議会児童福祉週間会員研修会 発達障害「グレーゾーンの子どもたち」講師
3. 弘前市5歳児における発達に関する予備調査及び発達健診説明会 講師
4. 不登校等関係機関連絡協議会「弘前市と連携した子どもセンターの取り組み」講師
5. 平川市教師力向上講座「発達特性の理解と支援」講師
6. 弘前市豊田小学校校内研修会「発達特性の理解と支援」講師
7. ひろさき子どもの発達支援事業「発達検査感覚プロフィールの紹介と活用」講師
8. 平川市教育委員会健康教育推進事業「思春期の子どもの心の状態」講師
9. 発達障害等のある児童生徒の支援体制強化事業「インクルーシブ教育ホップ研修会Ⅰ」コメンテーター
10. 弘前市保育等研修事業「5歳児発達健診とペアレントプログラム」講師
11. 東北町上北中学校「生徒の心のサポート支援」巡回支援

## 介入・三次予防

## 緊急支援活動および教育・医療事例検討会

### 2015年

六郷小学校爆発事故 緊急支援活動(黒石市教育委員会より依頼)

- 小学校児童のメンタルヘルス(PTSD)チェック
- 保護者講演会の開催

### 2016年

東北町立上北中学校中一男子生徒自殺 緊急支援活動(東北町教育委員会より依頼)

- 生徒の心のサポート支援活動
- 遺族支援
- 中学校生徒のメンタルヘルス(抑うつ状態および特別支援のニーズ)チェック

青森市立浪岡中学校中二女子生徒自殺 緊急支援活動(青森市教育委員会より依頼)

- スクールカウンセラーアドバイザー

弘前市立南中学校 ケースカンファレンス

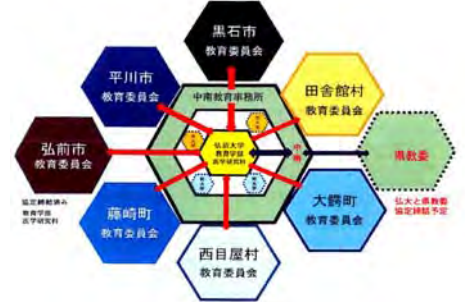
# 弘前地区連携推進協議会：弘前モデルの波及

## 中南地区6市町村教育委員会、中南教育事務所、 県立学校と弘前大学の連携協働

平成27年3月25日(水)に、黒石市、平川市、藤崎町、大鰐町、田舎館村5市町村教育委員会と弘前大学教育学部並びに大学院医学研究科とは、それぞれが相互の連携と協力により、21世紀を逞しく生きる調和のとれた人間性豊かな児童生徒の育成をはじめ、各市町村における教育の充実・発展及び教員養成に寄与すること、学校教育における諸課題に医学的見地から対応するとともに児童生徒の健康教育とそれを担う人材の育成に寄与することを目的に連携協定を締結した。

※なお、弘前市教育委員会は、平成24年1月27日(火)に教育学部と平成25年11月14日(木)に大学院医学研究科と既に連携協定を締結している。

協定の趣旨を踏まえ、平成27年3月25日6市町村教育委員会教育長、県教育庁中南教育事務所長、弘前大学教育学部長、弘前大学大学院医学研究科長、医学研究科附属子どものこころの発達研究センター長、青森県特別支援学校校長会から推薦のあった青森県立弘前第一用語学校長等を構成員に「弘前地区連携推進協議会」を設立した。



# インクルーシブ教育推進事業の全体計画

## 子どもセンターに求められる支援

### 保護者に対する相談支援及び関係機関との連携

保護者や家族に発達障害等の理解を図るための講話、啓発DVDの貸し出しを行うなどにより、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、LD等発達障害の発達特性と教育的係り方等について助言し、心理的適応を図り、適切な教育にあたるよう支援する。

### 市町村教育委員会に対する助言等

各市町村が設置する「就学(教育)支援委員会」における調査・審議等において教育学・心理学・医学等、専門的見地からの意見を参考に総合的な観点から市町村教育委員会が判断することから、特別支援学校、子どものこころの発達研究センター等から助言を得て中南地区における適切な就学支援に資する仕組みを検討する。





# これまでの実績：インクルーシブ研修会の開催・専門家の養成に貢献

平成27年度

7月29日(水)

インクルーシブ教育課題発見研修会

「つまづき、困っている子への指導・支援のあり方」

栗林理人(コメンテーター)

研修会参加者175名

2月13日(土)

子どものこころの発達をみんなで考える会

「子どもの心の問題に対する地域連携と医学的支援」

中村和彦(講師)

「子どものこころの問題の多様化への対応と取り組み」

栗林理人(コーディネーター)

高柳伸哉(シンポジスト)

平成28年度

7月27日(水)

インクルーシブ教育ホップ研修会1

「学級・学校での支援体制と家族や専門機関との連携協働」

足立匡基(分科会2:コメンテーター)

「子どものこころの問題への医学的・心理学的側面からの相談支援」

栗林理人(分科会3:コメンテーター)

## インクルーシブ教育教員研修体系の再構築 28年度より開始

指導支援に関する役割を明確にした研修の体系図(案)

支援ジャンプ研修

支援ステップ研修

支援ホップ研修

・対象は「支援ステップ研修」修了者、「支援ステップ研修」のグループ協議の助言者や事例発表など運営に協力する。  
・現行の「こどものこころの問題支援に関する研修」を位置づける  
・開催は講義と事例検討を重ねる協議の2回程度

・対象は各校のコーディネーター及び教頭とした悉皆研修  
・現行の「課題探求研修、課題追求・検証研修」を位置づける  
開催は各市町村ごとに1.5時間のコンパクト研修とし、各校の実践の共有や課題に対する解決を中心に5回程度

・対象は学級担任、TT、養護教諭など希望者  
・現行の「課題発見研修」、「こどものこころの発達、こころの問題研修」を位置づける  
・開催は長期休業中に中南区を対象として基本的知識、子どもの理解に関する講義として2回程度

※受講者の意識を促し、実践力を高めるために、研修会の修了書を発行するとともに、人材育成評価の一環としての取組として活用して人材育成を進める

## これからの役割

弘前市内における  
当センターの活動

- ・5歳児発達健診→発達外来（ペアプロ含む）
- ・小中コホート調査（公立・本学附属全校）、心の授業、子どもの発達・心理研修



- <近隣市町村との連携プロジェクト>
- ・子どもの発達講演会、研修会の計画、発達健診の診断、調査支援プランの提案

弘前市において5歳児発達健診と就学支援の連携モデルを構築し、弘前地区への波及を目指す

### 3. 被災地支援活動

#### 1) 福島支援活動

#### 2) 熊本地震緊急支援活動

## 福島支援（緊急スクールカウンセラー等派遣事業）

～3大学（福島大学・浜松医科大学・弘前大学）連携プロジェクト～

### 心の教育 プログラム事業

- 福島県各小・中・高等学校における心の教育プログラム（ストレスマネジメント方法<Unit1>や感情コントロール方法<Unit2>などの習得）の実施
- 教員への支援方法の研修など

### 巡回相談事業

- 福島県各小・中・高等学校における巡回相談（気になる児童生徒、保護者への個人面談、教員へのコンサルテーション、心理アセスメント等）の実施
- 支援重点地域（避難地区等）の教育事務所における巡回相談（気になる児童生徒のアセスメントおよび面談）、支援計画の立案、打ち合わせ等

### 保護者向け 講演会

- PTAでの精神的増進に関する保護者・教員研修の実施
- ペアレントプログラムを活用した支援を要する児童生徒の保護者に対するプログラムの実施

### 心の健康診断 （2015より）

- 児童精神科医や児童精神を専門とする臨床心理士等により、児童生徒や保護者、教員に直接面談を行うことにより、児童生徒の精神健康や支援ニーズを把握する（医療への紹介の必要性の有無や、支援方法の助言を行う）

<実施数> 福島訪問数 2014年度:29回 2015年度:24回

心の教育 プログラム事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2014 全体訪問数39校／144クラス(重複含む)のうち、13校／28クラス担当</li> <li>• 2015 全体訪問数20校／81クラス(重複含む)のうち、9校／18クラス担当</li> </ul>
巡回相談事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2014 全体訪問数67校のうち、4校担当</li> <li>• 2015 全体訪問数121校のうち、6校担当</li> </ul>
保護者向け 講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2014 ペアレントプログラム: 福島大学のサポートとして、5セッションに参加</li> <li>• 2014 PTA講演会: 全体4件のうち、1件担当</li> </ul>
心の健康診断 (2015より)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2015 12月11日 富岡第一・第二中学校(三春校) 医師4名・心理士2名参加</li> </ul>

## 熊本地震緊急支援活動



### ◇2016年5月6日、7日(中村)

#### 発達障害者支援センター・自閉症協会との会合等

- ➡熊本地震で被災された発達障害のある児童生徒等とその家族を対象にして、親御さんへの要望聴取・関係諸機関の取り組み状況や要望の把握を行った
- ➡発達障害の子どもたちを対象にした遊びの会や、子どもたち向けのリラクゼーションやストレスマネジメントのワークショップ開催を企画した

### ◇6月17日、18日(中村・安田)

#### 発達障害のある子ども・家族のための心理的ケア・プログラム実施

### ◇8月12日(中村)

#### 発達障害のある子ども・家族のための遊びの会参加及び支援相談実施

### ◇9月24日(安田)

#### 発達障害のある子ども・家族のための遊びの会参加及び支援相談実施